



今回のテーマ

微量栄養素欠乏とは

一般に栄養素は、多量栄養素と微量栄養素の2つに分類でき、タンパク質、脂肪、炭水化物は多量栄養素、微量ながらも人の発達や代謝機能を適切に維持するために必要な栄養素であるビタミン、ミネラルが微量栄養素です。車に例えると、エネルギーが身体のエンジン燃料、タンパク質は車体スチール部分、微量栄養素はオイルです。微量栄養素は様々な食料に含まれ、多くの食料に含まれるものもあれば、特定に食料にしか含まれないものもあります。微量栄養素がどのように身体に使われるかは様々ですが、二つのタイプがあります。

1型微量栄養素:鉄、ビタミン(A,B,C,D)、ヨウド、葉酸など、一般的に知られるタイプです。血液の中で循環するもの、診断や治療効果の測定は血液検査できます。それぞれの欠乏は個別の欠乏症状を発症し、鉄欠乏は貧血、ビタミンA欠乏、ヨウド欠乏(甲状腺腫、クレチン病)、ビタミンC欠乏(壊血病)、ニコチン酸欠乏(ペラグラ)、ビタミンB1欠乏(脚気)、などがあります。

2型微量栄養素:カリウム、ナトリウム、マグネシウム、亜鉛、リンなどで、組織の中に留まるタイプで、欠乏は特定の症状を呈しません。欠乏が起きると組織を破壊し、全体として栄養欠乏の状態を悪化させます。

連続ワークショップ

ワークショップ「国際栄養の現状と課題(第6回)」は、岡山市ゆあいセンターにおいて2017年4月21日に行われました。はじめて東京以外でおこなわれた今回のワークショップには、関西・中国地域のNGOや大学院学生などが参加しました。

「緊急下における栄養(NIE)」短期集中コース

2017年10月11~13日に、国連大学ビルにおいて「緊急下における栄養(Nutrition in Emergency: NIE)」の3日間短期集中コースが実施されました。本コースは、NAMが主催、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、日本リザルツ、ワールド・ビジョン・ジャパン、UNICEF、WFPの共催、ジャパン・プラットフォーム、JICA、FAOも協力団体として協力・支援のもとで実現しました。今回は国際専門家2名(Rita BhatiaとAndrew Seal)を講師として招聘し、日本を拠点とする関係者に世界の緊急時の栄養問題と対策について啓発するとともに、栄養に関する基礎的な理解と緊急時における栄養対策について幅広く実践的な知識を向上することを目的としたものでした。「Regional Course on Nutrition in Emergency」(11日間コース)の入門コースでもある今回の3日間コースには、NGO、国際機関、大学、研究機関、政府、民間企業などから約40人が参加しました。コースの主な内容は、1) 緊急時に発生する

様々なタイプの栄養問題とその原因、2) 緊急人道システムと栄養コーディネーション、3) モニタリング評価アセスメント・調査、4) 緊急時における栄養対策、なので、演習やディスカッションを多く取入れた実践的なもので、参加者も活発な議論を行い、それぞれの疑問、関心事項から様々な学びを得ることができました。



GGG+栄養セッション

2017年10月10日に麹町で行われた「GGG+フォーラム2017:UHCとSDGs実現に向けて」の中の栄養セッションに、NAMが登壇しました。UHC達成に際し、栄養不良の課題は避けて通れません。特に、「誰も取り残さない」という点から、近年増加する紛争や気候変動の影響による緊急下の栄養の重要性を訴えました。

ネパール事業

ネパール国ナワルパルシ郡内の5歳未満児の12%(7千人)が急性栄養不良です。これらの急性栄養不良児のうち重度の子どもは下痢や感染症などで死亡するリスクが健康な子どもに比べて9倍以上高く、早期発見し、治療・予防対策を行うことが求められています。

ナワルパルシ郡における5歳未満児の急性栄養不良対策を実施していくための体制が構築されることを目的にNAMは「ネパール国ナワルパルシ郡急性栄養不良統合管理プロジェクト」を計画立案してきました。このたび、公益信託今井記念海外協力基金の助成を受け、計画実施を一部開始することになりました。



「食料と栄養に関する国際シンポジウム」

2016年10月25、26日に行われる「食料と栄養に関する国際シンポジウム」にNAMが登壇した。このシンポジウムは、G7伊勢志摩サミットのフォローアップとして、「食と栄養に関する行動ビジョン」の具体

化に向け、6つのテーマに分けたパネルディスカッションが行われました。その中で、6つ目のテーマである「アカウンタビリティ」に関して、Action against Hunger (ACF)のValentin Brochardと共同で発表を行いました。



今後の計画

連続ワークショップ「国際栄養の現状と課題」は継続的に開催されます。また、ネパールにおける国際協力プロジェクトは、今後さらに発展的に実施するため、資金調達を継続します。さらに、その他、研修・講義、地域の国際協力イベントなどでの出展やセミナーなど、いろいろな形で活動を行います。